



子どもたちのために
ともに教育環境を考える
教育センターの教育情報誌

編集担当/茅ヶ崎市教育センター
住所：茅ヶ崎市十間坂三丁目5番37号
☎ 研究研修担当 (市青少年会館3階)
☎ 0467-86-9965
☎ 青少年教育相談担当 (同館2階)
☎ 0467-86-9963
URL: <http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/kyouiku/13286/index.html>

教

育センターでは、「教育研究」「教育研修」「教育相談」の推進をしています。「教育研究」では、小・中学校の教育に関する様々な研究、幼児期の教育に関する基礎研究を行っています。「教育研修」では、教職員の専門的な研修や教育研究を土台にして、市民の方々への家庭教育・幼児期の教育に関する講座などの機会をとおして情報提供を行っています。また、長い歴史を持つ小学校中学校創意工夫・研究作品展も本教育センターが担当し、子どもたちの創意・研究心の育成に向けた取組みを行っています。「教育相談」では、児童・生徒の様々な悩みに応え、自律性をはぐくむ支援ができるよう努めています。

【contents】

- 幼児期の教育についての研究から見えてきたこと (P.1)
- 平成25年度「幼児期の教育・家庭教育」講座・講演会の予定 (P.4)
- 平成24年度「幼児期の教育・家庭教育」講座・講演会のあしあと (P.5)
- 茅ヶ崎市小学校中学校創意工夫・研究作品展のお知らせ (P.7)
- 一人で悩まないで相談しようー青少年教育相談室から (P.8)

幼児期の教育についての研究から見えてきたこと

子どもの創造的想像力・共創力をはぐくむ大人の役割

平成24年度も幼児期の教育に関する基礎研究をもとに、「家庭教育・幼児期の教育」に関する講座や講演を開催してきました。また、乳幼児期の子どもに関する研究を発展させて、思春期とのつながりやこの時期の子育ち・子育てについての研究も行い、講座や講演会なども開催しました。(P.5参照)

今回は、講師の先生方のお話をトピックとしてお伝えします。

創造的想像力

「平成24年度第1回幼児教育研修会」より(講師 内田伸子氏、演題「子どものウソは『嘘か』～創造的想像力を育てる大人の役割～」、教育センター主催、茅ヶ崎寒川地区保幼小教育連携協議会共催 H24.8.7 開催)

内田伸子先生は、お茶の水女子大学名誉教授。日本の発達心理学を常にリードしてきただけでなく、世界でご活躍され、幼児教育を始めとするその他の教育の分野にも多くの功績を残されまし

た。そのご研究の蓄積をもとに、子どもの心に創造的想像力をはぐくむ大人の関わり方についてお話されました。

【想像は創造の泉】

生後10か月ごろに「第一次認知革命」が起こります。子どもの頭の中では、まずイメージが誕生したり、出来事を記憶し、思い出したりできるようになります。そして、「目の前からモノがなくなったとしても実際には存在している」ことも分かるようになります。また、「社会的参照」といって、身近な人の表情を読み取り、自分の行動が正しいかどうかを考えるようになります。こうした様々な経験(体験)を経て、子どもの想像力が生まれてきます。想像、つまり未来を思い描く素材は経験です。そして、様々な経験を組み合わせる自分なりに価値づけをするときには、そこに新しい何かが付加されるのです。それが、

創造の可能性となるのです。想像は創造の泉であるとも言えます。

【子どものウソは「嘘?」】

さて、例えば、子どもが見えないところで物を壊し、親が「どうしたの?」と聞くことがよくあると思います。そのとき、子どもは「始めから壊れていた!」と主張する場面はよくあることです。この時、親は子どもが「ウソ」をついたと思い、ひどくがっかりして叱ったりします。しかし、実際には5歳前の子どもたちは「ウソ」がなんであるかを知りません。

そもそも思い出すということは、過去の出来事を「再構成」することです。特に、思い起こしたものが自分にとって意味をなさない場合には、意味をなすような別の出来事を想像で付け加えていきます。先の例では、親に物が壊れたことをとがめられ、理由を聞かれている中で、物を触っていたことと、壊れた物を関係付けて

想い起こしているうちに、「最初から壊れていたのかもしれない」といった願望も付け加えられ、新しいストーリーができることは多々あります。

また、理由やその時のことを聞かれて、子どもがうまく説明できず、最初の答えと後の答えが違っていることもよくあることです。このうまく説明できない時に、大人が追いつめたり、質問を繰り返すことで、子どもは「自分の答えが間違っていた」あるいは大人の期待に応じるように答えを探そうとします。しかし、いずれの場合も、意図的な偽りは少ないものです。「ウソ」の大部分は、出来事を思い出し、考えているうちに、話全体の道筋を変えてしまうような事柄が付け加わるために起こるのです。ですから、子どものウソは「嘘」ではありません。または、大人が「嘘をついたでしょ」と叱る中で、「これが嘘なのか」と認識するようになり、その後、子どもなりに戦略的に嘘をつくようになります。

【学力格差は幼児期から始まっているか？】

昨今、学力格差と経済格差が関連しているといったお話をよく耳にします。そして、その格差は幼児期から始まっているということも耳にします。内田伸子先生は、日韓中越蒙の国際比較追跡研究を行い、分析を行いました

その結果、家庭でのしつけのスタイルと、学力に関連する読み・書き・語彙力といった能力とが関係していることが明らかになりました。そのしつけスタイルとは、共有型しつけと強制型しつけです。共有型しつけは、親子のふれあいを大切に、子どもと楽しい経験を共有したいといったスタイルです。一方の強制型しつけは、子どもをしつけるのは親の役目であり、悪いことをしたら罰を与えるのは当然のこと、力のしつけも

多用するといったスタイルです。では、どのように関係しているのかというと、共有型しつけの方が、読み・書き・語彙力が高く、強制型しつけはその反対の結果であることが分かりました。その理由は、共有型しつけでは、子どもに考える余地を与え、援助的なサポートをします。そして、子どもの様子に敏感で、子どもにあわせて柔軟に調整します。その結果、子どもが主体的な探索や自律的に考えて行動するようになるのです。一方の強制型しつけでは、子どもに考える余地を与えず、指示的、トップダウン的に介入し、情緒的なサポートが低いのです。その結果、子どもが主体的に探索せず、親の指示を待ち、顔色を見ながら行動するようになるのです。叱られながらやった勉強は面白くないので身に付かず、面白さを感じながらやった勉強は身に付くということです。

こうしたことを踏まえて、子どもの主体性を大事にする5つの関わり方をお示しします。

- ① 子どもに寄り添う。親は子供にとっての安全基地です。
- ② その子自身の進歩を認め、ほめる。他のお子さんとは比べない。
- ③ 「生き字引」のように余すところなく定義を与えない。
- ④ 「裁判官」のように「判決」をくたさない。禁止や命令ではなく、「提案」を。
- ⑤ 子ども自身が考え、判断する余地を残すこと。

こうした大人の関わり方の積み重ねによって、子どもに自律的な思考力と創造的想像力が育つということです。

若者に伝えたい処方箋

「平成24年度茅ヶ崎市教育講演会」
(講師 香山リカ氏、演題 「子どもの生きている世界—悩み多き子どもたち」、
教育センター主催、H25.1.26 開催)

教育センターでは、このように

幼児期の教育について研究を進める一方で、子どもの育ちの連続性を考え、思春期の子どもやそれ以降の若者の内面についても、少しずつではありますが研究を進めています。そうした中で、精神科医で、立教大学教授の香山リカ先生にご講演いただきました。香山先生は、豊富な臨床経験を生かして、現代人の心の問題を中心に様々なメディアで発言を続けていらっしやいます。

【ドミノ倒しのように起きる問題】

今どきの若者は、何かに一度つまずくと、あらゆる問題がドミノ倒しのように起きていきます。例えば、気持ちが落ち込む。(こころの問題) そうすると、からだがしんどくなってくる。(からだの問題) そうすると、仕事にいけない、見つからないという状況になる。(雇用問題) そうすると、生活費が底をつき、苦しくなる。(お金の問題) そうすると、「アパートを出て」と言われてしまった。(住居の問題) そして、最後に家族に見放され、友達も失ってしまう。(人間関係の問題)

すると、次には誰が救うのかという問題が起きます。例えば、最初のこころの問題で、うつ病になったとします。病院という場所において、うつ病への対応はできるけど、それでは問題は解決しません。その他の問題を総合的にはサポートできていません。その結果、その人が暮らす家族や集団の中で、立場の一番弱い人にしわ寄せが出てしまうものです。

【いまどきの若者について考える】

こうした状況の中で、今どきの若者について考えるべきことの1つ目として、「傷つきやすさ」があります。興味深いのは、一番身近な存在である親に言われた一言に傷つき、長い間、そのことを引きずっているということがあります。逆に、言った親は全く

覚えていないということはよくあります。例えば、「あなたには期待してないわ」という言葉など。

こうした状況を引きずって、本人が親になった時に、その親から言われたことを断ち切るかのよう、自分の子どもに過度な期待を寄せて、子どもに問題が生じてしまうというケースもあります。子どもに問題が出ているのですが、実は「自分」と親との問題を解決できずにいるということです。大切なことは、その時に親に対してしっかりと自分の気持ちを伝えるということです。

2つ目に考えるべきことは、「自己肯定感の低さ」です。「自分はダメなんだ」、「自分が生まれたのは誰にも望まれていなかった」、「自分の気持ちは誰にも分からないだろう」など、今の自分、ありのままの自分でいい、という感覚が持てずにいるのです。それに、孤独感と自罰意識も加わります。そして、こうした思い込みを背景に、1つの小さな出来事をきっかけに大きなことへと問題が発展してしまうのです。

3つ目に考えるべきことは、「高い自己実現欲求」です。大学生からよく聞く言葉の中に、「自分らしく生きられなければ意味がない」、「なんでもやれるはずだ」、「もっと頑張れるはずだ」という自分に対する幻想にも近い感覚を持っているのです。こういう状況なので自己啓発本がたくさん売れるのです。また、就職活動に際しても、「自分らしさ」を大切にすることが色々なメディアで言われていて、実際に働いてみると、「自分には合っていないから」とすぐにやめる若者も多くいます。しかし、どんな仕事でもやり甲斐を自分の工夫次第で見つけることはできるものです。それまでの過程の中で、親が子どもに対して、良い意味での「限界」を示してあげることも必要ではないでしょうか。「普通の人生」

で十分なのです。

そして、4つ目の考えるべきことは、「万能の愛、無償の愛」の幻想です。家族や自分に関わっている人からの愛情です。例えば、「お母さんなら分かってくれるはず」、「どんな自分でも受け入れてほしい」、「世界が敵にまわっても、あなただけは私の味方だと言ってほしい」などです。

こんな若い人たちへ伝えたい“処方箋”は次のとおりです。

- 何者かにならなければいけない、なんてことはない。
- あたりまえの生活がなんとかできるだけでも、上出来だ。
- 他人（の表面）と比べるのは、全く意味がない、みんなそれほどかわりはない。
- ほとんどの失敗なんて、大したことはない。
- 困っているときには、ひとを頼ったっていい。

そして、最後に家族や支援者に伝えたい“処方箋”です。

サポートには限界があり、無償の愛は与えられるものではありません。家族にも「自分らしく生きる権利」があります。家族だからこそ、感情が圧力鍋のように濃縮されてしまうのです。ですから、家族や支援者も自分を大切にしてください。

最後に…

子育て・子育ての基本

教育センターが進めている幼児期の教育に関する基礎研究については、「知性というのは、共感性があるからこそ伸びていく」という考えを土台にして研究を進めています。これに関連したお話しは、第1号でご紹介した佐伯先生の記事（「勉強と学びの違いー学びの本質に迫る」、東京大学名誉教授佐伯胖先生、教育センター主催調査研究発表会基調講演、

平成23年）にも掲載しています。

今回、ご紹介した内田先生のお話も共感性に通じることがあると思います。その共感性の土台になるのは、共感的に関わってくれる人の存在です。乳幼児期の子どもたちにとっては、内田先生がまさにお話しされているように「親」であり、子どもの世界を共有してくれる人です。共感的に関わってくれる親や人との経験を積み重ねながら、創造的想像力、そして仲間とともに新しい何かをつくり出す「共創力」を伸ばしていくことができるでしょう。

もしかしたら、香山先生が指摘されている「若者の悩み」は、この幼児期以降の子育ち・子育て環境の中に、何か課題があるかもしれません。しかし、乳幼児期が終わったからと言って、取り返しがつかないということはないように思います。方法は様々ですが、私たち大人も思春期を通り過ぎてきましたが、十分に「自分」を変えることができるのですから。

平成25年度も様々な視点から、幼児期に関する基礎研究を進め、講座や講演会をとおして市民の皆様とともに学ぶ機会をつくってまいります。（P.4）

市民の皆様とともに、子ども育てることの難しさを共有し、大人の役割と大人自身のこれからの歩み方を見つめ直していきたいと思えます。

【研究研修担当】



平成25年度「幼児期の教育・家庭教育」講座・講演会の予定

平成25年度の幼児期の教育や家庭教育、子どもの育ちに関する講座や講演会の取り組みをお知らせいたします。改めまして広報茅ヶ崎でもご案内いたします。

- 申込方法：一般参加の方々はお電話にて受付けます。（お名前・ご連絡先電話番号・託児の有無）
※保育園での出前講座では、会場園保護者の方々には専用受付用紙がございます。
- 申込先：茅ヶ崎市教育センター
 - 住所 〒253-0045 茅ヶ崎市十間坂三丁目5番37号
 - 電話 0467-86-9965

【平成25年度】I. 会場が市役所付近の講座等（日付順）

名称	日時	講師（所属/専門分野等）・内容等
第5回 乳幼児期の 子育て・子育て講座	6月11日（火） 10時から12時 （申込期間 5/8～6/4）	講師 <small>さくまみちこ</small> 佐久間路子氏（白梅学園大学准教授/発達心理学） 講演 「乳幼児期の子ども心に『わたし』が育つとき」 会場 市役所分庁舎6階コミュニティホール 定員 60名（申込制・先着順） 託児 2歳以上のお子さん10名（申込制・先着順）
第3回 響きあい教育 シンポジウム	7月29日（月） 14時から16時30分 （申込期間 6/25～7/22）	講師 <small>えんどうとしひこ</small> 遠藤利彦氏（東京大学大学院准教授/発達心理学） <small>よしかわいこ</small> 芳川玲子氏（東海大学教授/臨床心理学、医学博士） テーマ 「いじめのころをのぞいてみればー乳幼児期から思春期の子育て・子育て」 内容 ①講師2人による乳幼児期と思春期に関する講演 ②講師2人と本市教育長による鼎談（ていだん） 会場 市役所分庁舎6階コミュニティホール 定員 120名（申込制・先着順）（市内在住・在勤の方） 託児 2歳以上のお子さん10名（申込制・先着順）
平成25年度 第1回 幼児教育研修会	8月26日（月） 15時から17時 （申込期間 7/25～8/19）	講師 <small>さかきはらよういち</small> 榎原洋一氏（お茶の水女子大学大学院教授/発達神経学、小児科医） 講演 「子どもの育ちと脳科学ー幼児期の教育で大切なこと」 会場 市役所分庁舎6階コミュニティホール 定員 120名（申込制・先着順）（市内在住・在勤の方等） 託児 2歳以上のお子さん10名（申込制・先着順）
【響きあい教育セミナー】New 子育て・子育て マタニティセミナー	9月28日（土） 10時から12時 （申込期間 8/22～9/20）	講師 <small>えんどうとしひこ</small> 遠藤利彦氏（東京大学大学院准教授/発達心理学） 講演 「初めてパパやママになる方へ 赤ちゃんのころをはぐくむー生まれる前からの子育て・子育て」 会場 男女共同参画推進センター「いこりあ」 定員 40名（申込制・先着順）（市内在住・在勤の方） 託児 未就学児10名（申込制・先着順）
第6回 乳幼児期の 子育て・子育て講座	10月24日（木） 10時から12時 （申込期間 9/24～10/17）	講師 <small>とくだはるこ</small> 徳田治子氏（高千穂大学准教授/発達心理学） 講演 「子どもが生まれて『親』になるということー成長・変化・戸惑いの中で」 会場 市役所分庁舎6階コミュニティホール 定員 60名（申込制・先着順）（市内在住・在勤の方） 託児 2歳以上のお子さん10名（申込制・先着順）
茅ヶ崎市教育講演会	1月25日（土） 10時から12時 （申込期間 12/20～1/17）	講師 <small>うちだのぶこ</small> 内田伸子氏（お茶の水女子大学名誉教授/発達心理学） 講演 「子どもの創造的想像力をはぐくむ大人の役割ー子どもが伸びることはかけー」 会場 市役所分庁舎6階コミュニティホール 定員 120名（申込制・先着順）（市内在住・在勤の方） 託児 2歳以上のお子さん10名（申込制・先着順）



【平成25年度】Ⅱ. 市立保育園を会場とした「乳幼児期の子育ち・子育て出前講座」

会場：市立保育園 / 共催：保育課・市立保育園・男女共同参画課

日時	会場保育園	講師（所属/専門分野等）・内容等
4月27日（土） （申込期間 3/25～4/24）	市立 鶴が台保育園	講師 <small>みぞかわあい</small> 溝川藍氏（明治学院大学助教/認知発達心理学） 演題 「子どもの世界から見た『ほめる・しかる』-自信をはぐくむ言葉かけ」
5月25日（土） （申込期間 4/23～5/22）	市立 香川保育園	講師 <small>すながみき</small> 須永美紀氏（立教女学院短期大学専任講師/保育学、幼児教育） 演題 「子どもらしさを大切にしたい子育て-子どもの心をのぞいてみれば」
6月29日（土） （申込期間 5/28～6/26）	市立 浜須賀保育園	講師 <small>ますだときえ</small> 増田時枝氏（聖心女子専門学校非常勤講師/発達心理学、保育学、幼児教育） 演題 「絵本と子育て-子どものこころを映す絵本-」
10月26日（土） （申込期間 9/25～10/23）	市立 小和田保育園	講師 <small>えんどうとしひこ</small> 遠藤利彦氏（東京大学大学院准教授/発達心理学） 演題 「親は子どもにとっての『安全基地』-生涯を支える親子の関係」
11月16日（土） （申込期間 10/16～11/13）	市立 室田保育園	講師 <small>みぞかわあい</small> 溝川藍氏（明治学院大学助教/認知発達心理学） 演題 「子どもの世界から見た『ほめる・しかる』-自信をはぐくむ言葉かけ」
2月22日（土） （申込期間 1/21～2/19）	市立 浜見平保育園	講師 <small>おかもとよりこ</small> 岡本依子氏（湘北短期大学准教授/発達心理学） 演題 「乳幼児期のコミュニケーション発達-成長を支える親の役割」

□ 定員 各会場30名（申込制・先着順）（市内在住・在勤の方）

□ 託児 未就学児10名（申込制・先着順）

小学校区青少年育成推進協議会との共催による

【平成25年度】Ⅲ. 乳幼児期から思春期の子育ち・子育て出前講座

【共催】小学校区青少年育成推進協議会、男女共同参画課

ただ今、ご協力いただける小学校区青少年育成推進協議会と調整中です。日程等決まり次第、教育センターホームページ等でお知らせいたします。

平成24年度「幼児期の教育・家庭教育」講座・講演会のあしあと

平成24年度はたくさんの方々にお越しいただき、ありがとうございました。

【平成24年度】Ⅰ. 会場が市役所付近の講座等の記録（日付順）

名称	日時・会場	講師（所属/専門分野等）・内容等
終 第3回 乳幼児期の 子育て講座	6月25日（月）10時から12時 会場:市役所分庁舎6階コミュニティホール	講師 <small>さかみひろこ</small> 坂上裕子氏（青山学院大学准教授/発達心理学） 講演 「子どもと一緒に楽しむ子育て-子どもも親も主人公」
終 第2回 響きあい教育 シンポジウム	7月31日（火）9時30分から12時 会場:市役所分庁舎6階コミュニティホール	講師 <small>えんどうとしひこ</small> 遠藤利彦氏（東京大学大学院准教授/発達心理学） <small>よしかわれいこ</small> 芳川玲子氏（東海大学教授/臨床心理学、医学博士） テーマ 「反抗期の意味と親の悩み～乳幼児期から思春期の子どもの世界」
終 平成24年度 第1回 幼児教育研修会	8月7日（火）15時から17時 会場:市青少年会館ホール	講師 <small>うちだのぶこ</small> 内田伸子氏（お茶の水女子大学名誉教授/発達心理学） 講演 「子どものウソは『嘘』か?～子どもの創造的想像力を育む大人の役割」
終 第4回 乳幼児期の 子育て講座	10月15日（月）10時から12時 会場:市役所分庁舎6階コミュニティホール	講師 <small>のだじゅんこ</small> 野田淳子氏（東京経済大学准教授/発達心理学） 講演 「乳幼児のこころを理解する-子育ての心理学」
終 茅ヶ崎市 教育講演会	1月26日（土）10時から12時 会場:市役所分庁舎6階コミュニティホール	講師 <small>かやま</small> 香山リカ氏（立教大学教授/精神病理学） 講演 「子どもの生きている世界-悩み多き子どもたち」

【平成24年度】Ⅱ. 保育園での乳幼児期の子育ち・子育て出前講座（日付順）

平成24年度から新規開催しました。会場は、市立保育園6園で、子育て中の市民の方々にとって、より身近な場所で講座を開催しました。

会場：市内公立保育園 / 共催：保育課・市立保育園

日程	会場保育園	講師（所属/専門分野等）・内容等
終 4月28日（土）	市立 浜見平保育園	講師 <small>えんどうとしひこ</small> 遠藤利彦氏（東京大学大学院准教授/発達心理学） 講演 「乳幼児期における子育て・子育ての基本について考える」
終 5月26日（土）	市立 鶴が台保育園	講師 <small>すながみき</small> 須永美紀氏（立教女学院短期大学専任講師/保育学） 講演 「見つけよう！味わおう！子どもの成長」
終 6月23日（土）	市立 香川保育園	講師 <small>えんどうとしひこ</small> 遠藤利彦氏（東京大学大学院准教授/発達心理学） 講演 「乳幼児期の子育ち・子育てのカギは安全感の輪」
終 10月27日（土）	市立 浜須賀保育園	講師 <small>えんどうとしひこ</small> 遠藤利彦氏（同上）
終 11月24日（土）	市立 小和田保育園	講師 <small>すながみき</small> 須永美紀氏（同上）
終 2月23日（土）	市立 室田保育園	講師 <small>だん なおこ</small> 旦直子氏（帝京科学大学准教授/発達心理学） 講演 「3歳児神話・早期教育のホントウソ～子どもの力を見つめる子育て」



小学校区青少年育成推進協議会との共催による

【平成24年度】Ⅲ. 乳幼児期から思春期の子育ち・子育て出前講座

平成24年度から新規開催しました。大きく2地区の小学校区青少年育成推進協議会のご協力をいただき、各3回シリーズで開催しました。

【共催】緑が浜・汐見台・松浪小学校区青少年育成推進協議会、男女共同参画課

列-ズ	日程	会場	講師（所属/専門分野等）・内容等
終 1	7月1日 （日）	緑が浜 小学校	講師 <small>えんどうとしひこ</small> 遠藤利彦氏（東京大学大学院准教授/発達心理学） 講演 「乳幼児期から思春期の子育ち・子育てのカギは安全感の輪」
終 2	9月15日 （土）	汐見台 小学校	講師 <small>だん なおこ</small> 旦直子氏（帝京科学大学准教授/発達心理学） 講演 「3歳児神話・早期教育のホントウソ～子どもの力を見つめる子育て」
終 3	11月11日 （日）	小和田 公民館	講師 <small>きたしまあゆみ</small> 北島歩美氏（日本女子大学加サリッグ センター准教授/臨床心理学） 講演 「思春期の親離れ・子離れの心理—家族をつなぐものとは？」

【共催】茅ヶ崎小学校区青少年育成推進協議会、中海岸保育園、男女共同参画課

【後援】高砂コミュニティセンター管理運営委員会

列-ズ	日程	会場	講師（所属/専門分野等）・内容等
終 1	7月21日 （土）	高砂 コミュニティ センター	講師 <small>えんどうとしひこ</small> 遠藤利彦氏（東京大学大学院准教授/発達心理学） 講演 「乳幼児期から思春期の子育ち・子育てのカギは安全感の輪」
終 2	12月9日 （日）		講師 <small>すながみき</small> 須永美紀氏（立教女学院短期大学専任講師/保育学） 講演 「乳幼児期の子どもの成長をみつめる—心をはぐくむ子育て・大人の役割」
終 3	2月17日 （日）		講師 <small>きたしまあゆみ</small> 北島歩美氏（日本女子大学加サリッグ センター准教授/臨床心理学） 講演 「思春期の親離れ・子離れの心理—家族をつなぐものとは？」

【研究研修担当】

茅ヶ崎市小学校中学校 創意工夫・研究作品展のお知らせ

New!! 平成25年度 第42回 作品展のご案内

平成25年度は、第42回を迎えます。小・中学校の先生方が中心となって運営し、各学校をとおして作品を募集します。茅ヶ崎市在住、在学であれば、私立の小・中学校に通う児童・生徒の作品も受け付けています。

作品展の開催日時・会場

- 9月13日(金)・14日(土)・15日(日)の3日間
いずれも9時から17時まで
- 茅ヶ崎市青少年会館
(十間坂三丁目5番37号; 梅田中学校前)

2 つ の 部 門

作品展には2部門あります。

□ 創意工夫作品部門

普段の遊びや生活の中から、こんなものがあつたらいいなあと思うことを工夫して作り出したもの。

□ 研究作品部門

理科学的な内容や社会的な内容など、観察や実験、調査したものをまとめたもの。

作品応募の手順

- ① 夏季休業を利用して創意工夫作品を製作、または自由に課題を選び研究します。
- ② 作品は各学校の担任の先生に出品します。茅ヶ崎市在住、在学で私立の小・中学校に通う児童・生徒の皆さんは、直接教育センターに出品します。
- ③ 各学校と教育センターで事前選考があり、事前選考で選ばれた作品が、作品展に出品されます。
詳しくは、7月上旬に市ホームページで紹介します。

平成24年度 第41回 作品展の様子

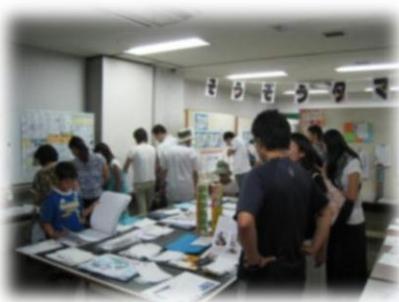
「不思議と驚きからそうぞうタマゴ～想像と創造のころ」

第41回作品展テーマは、“不思議と驚きからそうぞうタマゴ想像と創造のころ”。素敵な作品が集いました。

出品作品数は、創意工夫作品部門248作品、研究作品部門282作品、合計530作品でした。作品展審査会で、金・銀・銅・努力賞を選考し、展示されました。

作品展は、平成24年9月7日(金)から9日(日)の3日間、市青少年会館で開催されました。3日間でご来場された方々は合計約2,600名ととても多くの方々にお越しいただきました。

展示されたお子さんの作品を家族で見に来られた方々、友だちの作品を見に来た子どもたち、来年の参考にと見に来られた保護者の方々など、会場はにぎわっていました。そして、お孫さんの作品を見に来られた祖父母の方々が、お孫さんの頑張りにはほほえんでいらっしやったお姿が印象的でした。



創意工夫作品部門優秀作品が、 「第71回神奈川県青少年 創意くふう展覧会」へ

創意工夫作品部門優秀27作品が、第71回神奈川県青少年創意くふう展覧会(主催神奈川県/一般社団法人神奈川県発明協会)に出品され、結果は次の通りです。

【発明協会会長奨励賞】

「つり箸くん」
松浪中学校1年 宮川小菜実さん
【神奈川県発明協会会長賞】

「連続水でっぼう」
香川小学校2年 吉田 堅さん
【優良賞】5作品(5名)
【努力賞】20作品(20名)

研究作品部門優秀作品は、 「第30回全国小・中学生作品 コンクール」へ

研究部門優秀27作品は、第30回全国小・中学生作品コンクール(主催子どもの文化・教育研究所)に出品され、結果は次の通りです。

【理科部門：子どもの文化・教育研究所理事長賞】

「白米と雑穀米を1度においしく炊くベストな方法」
小和田小学校6年 塚原 響さん

【社会科部門：優秀賞】
「野菜の産地調べ第3弾秋冬春夏」
鶴嶺小学校4年 尾形 駿さん
【奨励賞】25作品(26名)

【研究研修担当】



一人で悩まないで 相談してみよう

青少年教育相談室から

生活の中で、友だちとの関係に悩んだり、自分に対して否定的な感情を抱いたりすることは、誰にでもあることです。でも、その時はとても苦しく、自分を見失いそうになることもあります。

決して一人で悩まないでください。本センターの青少年教育相談室では、お子さん自身の悩み、保護者の方々の悩みに寄り添い、お力になりたいと思います。

各種相談を電話・面接（来所）で行っています。相談の秘密は守ります。お気軽にご相談ください。

面接は各相談電話で予約してください。

電話相談・面接予約

- 月曜日から金曜日
（休日及び年末・年始を除く）
- 昼間：9時から17時
各電話で受け付けます。
- 夕方：17時から18時
電話：0467-86-9963で受け付けます。

相談スタッフ

青少年教育相談員
（臨床心理士・教職経験者等）

相談の方法と内容

1 電話相談

【一般教育相談・青少年相談】

電話：0467-86-9963・9964
勉強や進路のこと、親子関係、非行や将来への不安などの悩み。

【「こころ」の電話相談】

電話：0467-57-1230
学校に行きたくても、行くことができない。すぐにいらいらしたり、落ち込んだりする。お子さん

の不登校などにどう対処したらよいかという悩み。

【「いじめ」電話相談】

電話：0467-82-7868

「いじめ」の場面を見たり聞いたりした。「いじめ」への対処をどのようにしたらよいかなどの悩み。

【特別支援電話相談】

電話 0467-86-1062

お子さんに友だちができない、落ち着きがない、学習のつまずきがあるなどの悩み。



2 面接相談

電話 0467-86-9963・9964

（予約制）

いじめ・不登校など、電話では相談しきれない内容やじっくり時間をかけて相談したい内容について、専門の相談員が、問題解決に向けて一緒に考えます。継続的な相談に応じています。電話で予約をしてください。



3 小・中学校要請教育相談

「2面接相談」を受けている小・中学生を対象として、保護者の要請により、専門の心理相談員が学校を訪問します。子どもの様子を把握し、学校の先生も交えて相談を行います。

不登校児童・生徒訪問相談

不登校あるいは不登校傾向にある小・中学生のご家庭に、お兄さんやお姉さんのような年代の訪問相談員が訪問し、相談を行っています。相談員が気軽な話し相手、相談相手となり、子どもの生活状況の改善を目指し支援をしています。

あすなろ教室入室のご案内

学校に行きたくても行かれない小・中学生の皆さんが、心を休め、自分らしさを大切にしながら学べる場所です。お子さんが学校に戻って楽しい学校生活が送れるようにお手伝いします。

通室生は、自分らしさを大切にしていってゆくりと自分の生活を作り上げながら、集団生活に対する自信を深めることを目指して活動しています。

一人ひとりが課題を決めて自分のペースで学習を進めるだけでなく、ゲームや体験学習といった興味ある楽しい活動を通して視野を広げ、人間関係を作り上げる力を養っていきます。

各小・中学校の

心の教育相談室

名称は様々ですが、各小・中学校に子どもたちが自由に利用できるホッとできる空間（部屋）があります。そこに、週3日程度、心の教育相談員がいて子どもたちの話し相手や、ちょっとした相談を受けています。子どもたちの悩みやストレスを早期に発見・対応し、安心できる過ごしやすい学校生活を提供できるように努めています。また、月に数回、スクールカウンセラーという専門の心理カウンセラーが勤務します。子育てや教育に関する相談を受けています。相談希望のある保護者の方は、学校にご相談ください。

【青少年教育相談担当】

編集担当／茅ヶ崎市教育センター
☎ 研究研修担当（市青少年会館3階）
☎ 0467-86-9965
☎ 青少年教育相談担当（同館2階）
☎ 0467-86-9963
茅ヶ崎市十間坂三丁目5番37号
URL <http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/kyouiku/13286/index.html>